



母はつよし

〜頂いた手紙のご紹介〜

自分の子どもが発達障がいかもしれない…発達検査を受け、診断を待つ1ヶ月間がとても長かったことを思い出します。その間に、このことを親しい人に打ち明けたら「親の愛情が足りないだけ」と一言。今でも忘れられません。発達障がいのこと、今では受け入れられていると思っけど、最初に告げられたときのことを思い出すと、未だに泣けてしまつ私です。…

障がいがあること自体より、言われた「一言」が一緒に思い出されて泣けるといった方が正確でしょうか。あんなに悲しくて悔しかったことはなかったです。

目に見えない、一見普通の子どもなのに障がいがある(かもしれない)ことに悩んでも、そういう子を持つ親である、と受け

止めることは、少しの時間があればできると思います。「なるほど、そうだったんだ」と納得できれば受け入れやすいし、「苦しい思いをしていたのに、気付いてあげられず無駄に怒ってしまったこともあった。ごめんね」と反省する部分もあると思います。だから、受け入れるまでの時間に個人差はあっても、多分受け入れることはできると思うんです。それよりも、私が言われたような「親の愛情が足りない」にはじまり、「育て方が悪い」とか「しつけができていない親が悪い」とか、親を追い込む発言をされる方が傷つくし、人によってはそういう発言が嫌で、障がいを受け入れるにも必要以上に時間がかかるんじゃないかと思えます。家族にすら理解してもらえなければ、自分を追い込んでどんどん苦しくなるし、子どもにも優しくできないかもしれません。

私自身、診断がつくまでは、実母から「この責められていたから、年齢の割に大人の言うことを聞かない」とか「他の子はたくさんおしゃべりできるのに、言葉が遅い」とか。成長に

は個人差があると、自分に言い聞かせながらも、ちょっと集団から浮いていることや行動のパターン化などが気になっていたので、こっそり発達障がいのことも調べていました。ですが実際に診断を受けたことで、今後どう関わればいいのか道筋が見えたと、たくさんの方や行政の支援を受けられるし、子どもにとっていい環境が整ってきたので、よくわからなくてモヤモヤしていたときよりも心は軽いし安定しています。

計画的な対応をしていくことで、ぐんぐん伸びている我が子を目の当たりにし、ゆっくりでもちゃんと成長はしているって身を持って感じていますし、幸い我が家は私だけが奮闘しているわけではなく、夫はもちろん診断を受けた今では両方の祖父母も理解を示し、誰よりも強い味方として協力してくれるので恵まれていると思います。サポートして下さるたくさんの方の専門家に見守っていただけますしね。

違ったで安心できるし、そうだったらすうだったで見えない不安からは解放されるよ。どうしたらいいのかわかれば、やること盛りだくさんで忙しくなるよ」と勧めたところ相談してみたそうです。ホントに早期発見となつたらなつたで、周りへの協力要請や関わり方、療育等々、忙しいですもんね。「診断名ついてても、可愛さに変わりはなくよ」と付けて加えるところ「だよ」と、相談する決心ができたと言っていました。

今回は、あるお母さんから頂いた手紙を紹介させていただきました。これまで何度かに分けて書いてきた「早期発見・早期対応」障がいの受け入れ「受容のプロセス」について、実際に体験している方だからこそ、気持ちの流れがたくさんつづつてあり、とても貴重なことを私たちに伝えてくれています。目に見えにくい障がいであるからこそ、なおさら多くの方が「知る」「触れる」ことが大切なので

中央公民館 講座案内



●和菓子作り教室

とき 7月12日(金) 13時〜15時

定員 20名

材料費 500円

対象者 町内在住の方および在勤者

※7月1日(月)8時30分より中央公民館窓口または電話で申し込みください。
定員になり次第締め切ります。

【申し込み・問い合わせ】

中央公民館

☎45-8446